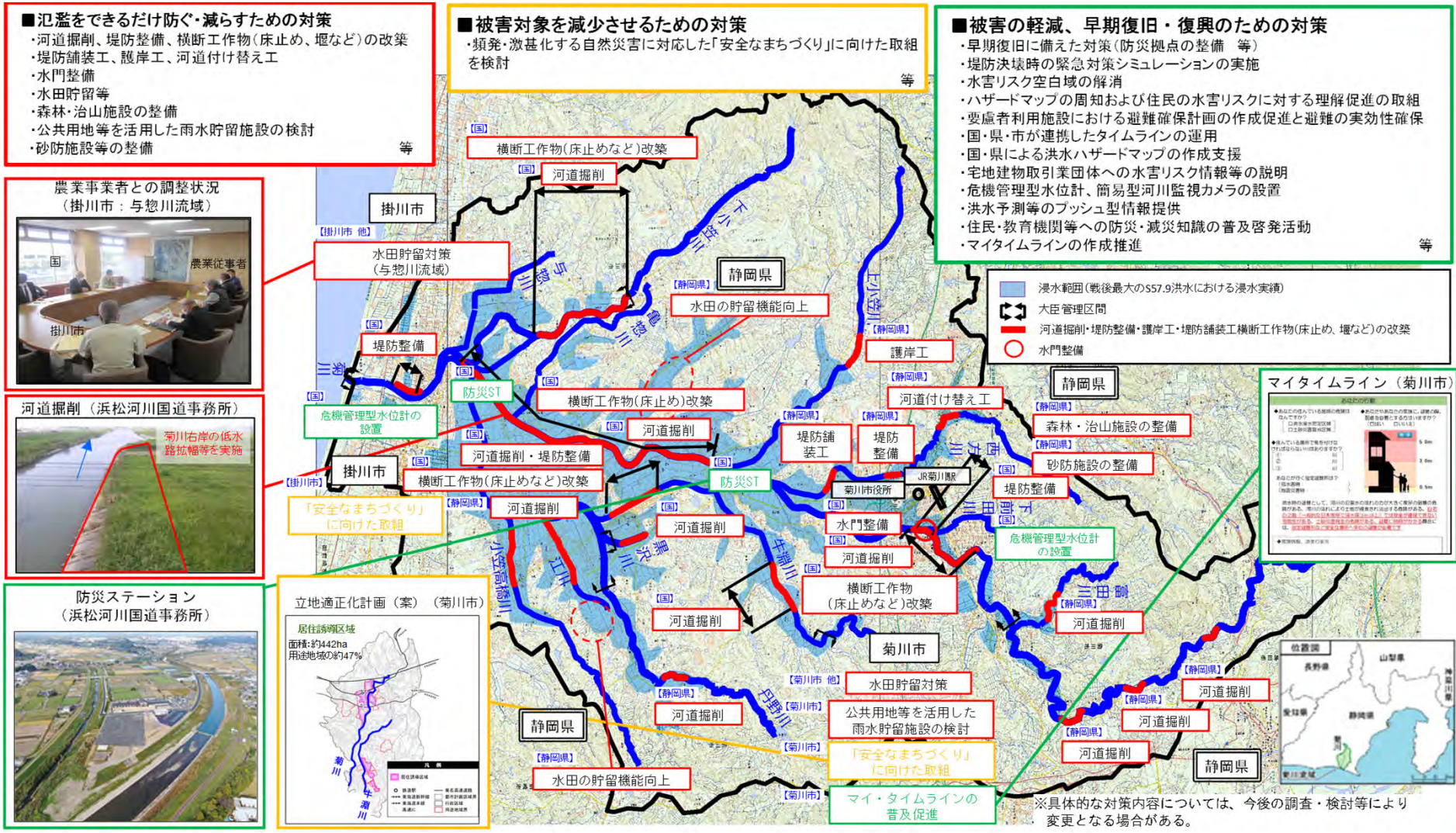


# 菊川水系流域治水プロジェクト

## ～菊川水系 与惣川で田んぼ貯留柵設置～

### ○菊川水系流域治水プロジェクト

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、菊川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 流域面積が小さく、流域の約48%が水田・茶畑等として利用されている流域であり、河川整備に加え、防災ステーションの整備や水田貯留等の流域対策により、水害リスクの軽減を図る。
- これらの取り組みにより、国管理区間においては、戦後2番目の平成10年9月洪水を安全に流し、それを上回る戦後最大の昭和57年9月洪水と同規模の洪水に対して堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。

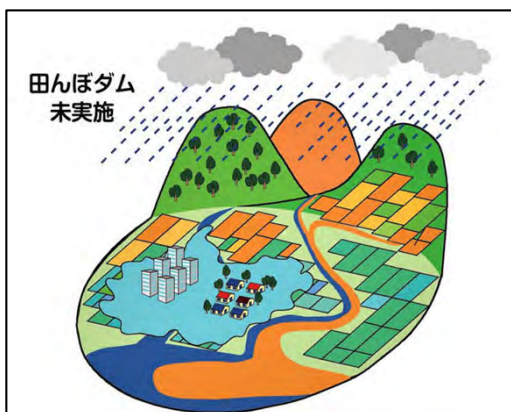




- 田んぼ貯留とは、田んぼが持っている貯水機能に着目し、大雨の際に田んぼに雨水を一時的に貯留し、時間をかけてゆっくりと排水することで、河川や排水路の急激な水位上昇を防ぎ、洪水被害を軽減する取組です。

### 通常の田んぼ

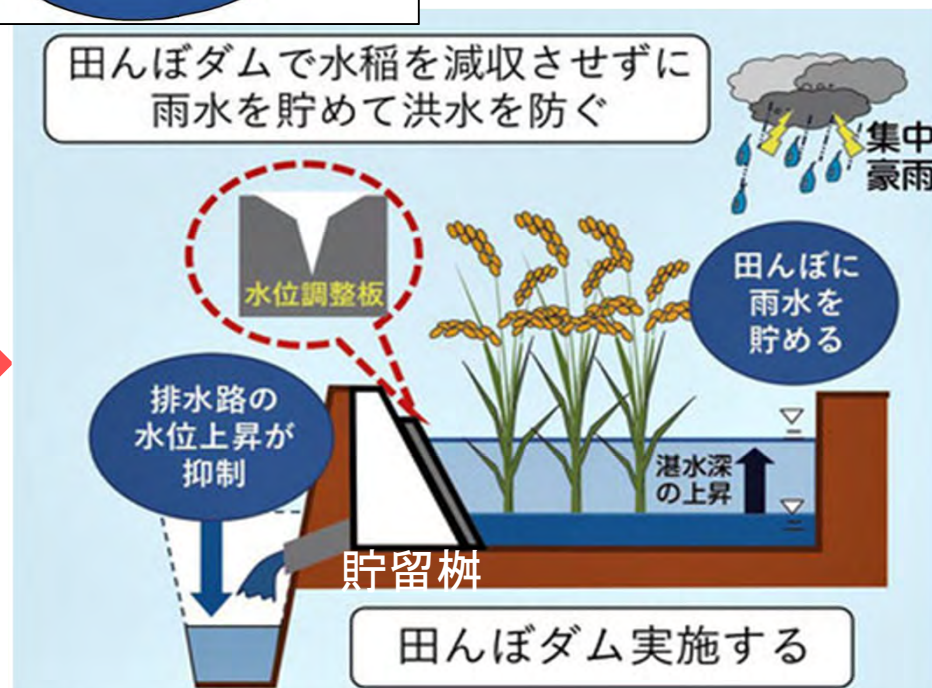
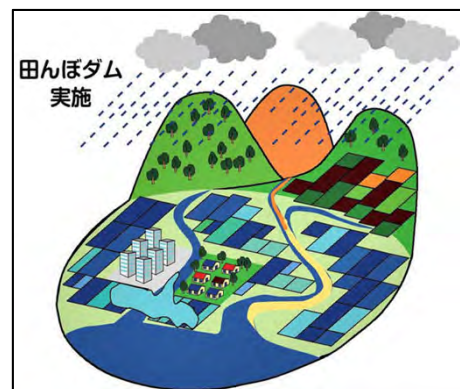
水田の排水がそのまま排水路へ流れ、排水路の水位が上昇します。



### 田んぼ貯留実施後

[ 出典: トーヨー産業株式会社ホームページ ]

調整装置を取り付け、ゆっくりと排水を流すことで、排水路の急激な水位上昇を防ぎます。





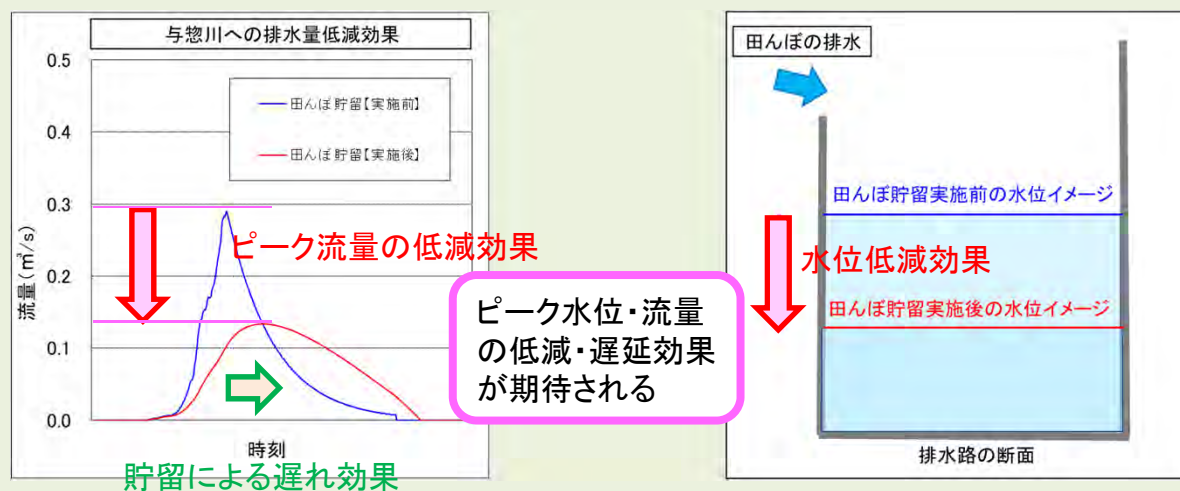
※対象圃場やカメラ・水位計の位置は変更となる可能性がある。



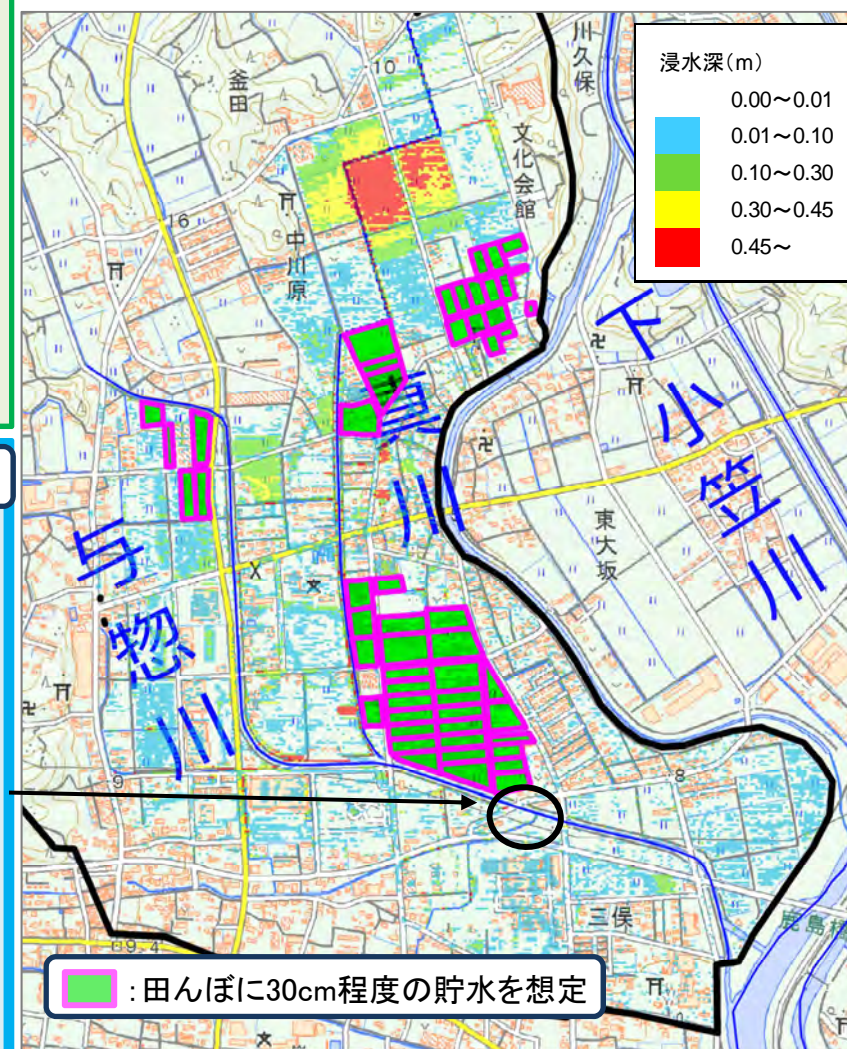
# 菊川水系流域治水プロジェクト ～菊川水系 与惣川で田んぼ貯留桝設置～

- 令和元年台風第19号を対象に、今回の実証実験で対象とする田んぼ(約13ha)で田んぼ貯留対策を実施した場合の効果を試算しました。  
排水先に合流する与惣川の水位 → ピーク水位を約1cm低下  
与惣川全体の田んぼ(約100ha)で実施した場合は約7cm低下
- 今後、台風上陸時の降雨を対象とした水田(田んぼ)貯留の効果検証を行います。

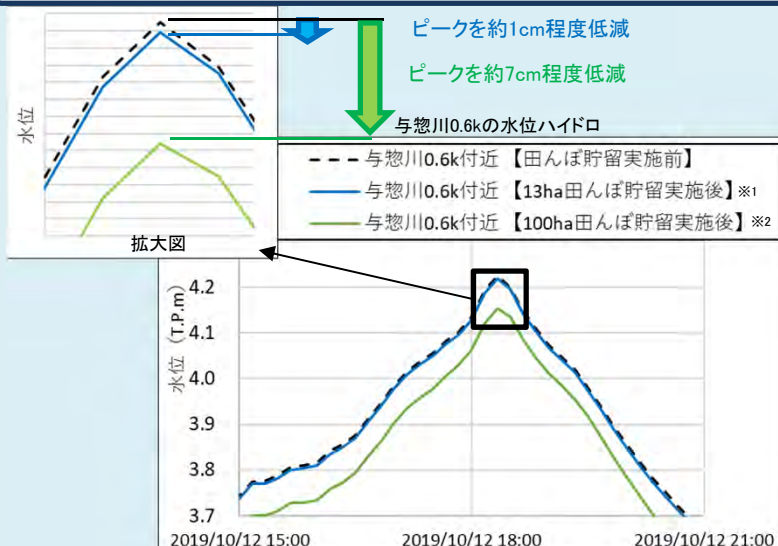
## 令和元年台風第19号に対して田んぼ貯留を実施した場合の排水路の効果イメージ



令和元年台風第19号対する  
田んぼ貯留を実施した場合の効果の試算



## 令和元年台風第19号に対して田んぼ貯留を実施した場合の与惣川の水位低下効果



今回実証実験の対象とする  
13haの田んぼで貯留を実施し  
た場合、排水路が接続する与  
惣川で約1cmの水位低下効果  
を確認

与惣川流域のすべての田んぼ（約100ha）で田んぼ貯留を実施した場合、与惣川で約7cmの水位低下効果を確認

※1 今回実証実験を行う田んぼ(約13ha)の活用を想定

※2 与惣川流域の全ての田んぼ(約100ha)の活用を想定